

子どもの死とグリーフケアについて考える 交流講座

グリーフケアを遺族ケアと考える医療従事者が少なくありませんが、家族の多くは、あくまでそれはグリーフケアの一部と考えます。そこで、「当事者にとってのグリーフケア」とは何か？どの段階で、何を、どのように行うことが望まれているのか？そんな検討を、テーマを変化させながら隔月で行っています。



第14回 「病院での闘病～在宅で看取るまで オーストラリアにて」

概要 娘を襲った病気は悪性リンパ腫でした。「85%治る」と言われていたにもかかわらず、15%の中に入ってしまった。私にとって最も過酷だったのは、再発が告げられたときでした。初発、再再発のとき以上に。そして再再発してからは一度も病院に行っていない。私どもが今、まだなんとか過ごしているのは、あの緩和ケアの時間があつたからです。小児の緩和ケアはとても重要な医療です。積極的な治療ではない、けれども決して絶望の治療でもありません。医師、病院の看護師、訪問の看護師、ソーシャルワーカー、チャプラン（宗教者）、それぞれの医療スタッフが、娘と私たち家族にどのように関わってくださったか、その時どき感じたこと、考えたことを詳細に振り返ります。体験発表後は、参加者（医療者）同士のディスカッションを充実させます。

発表者 「小さないのち」会員

対象 医療従事者

日時 2018年9月16日（日）10:45～13:00 **開場** 10:30

場所 関西学院大学梅田キャンパス 1004室 （茶屋町アプローズタワー10階）

定員 80人（要予約）

参加費 小さないのち（子どもを亡くした家族の会）の運営への支援として一口500円の寄付を3口（1500円）以上でお願いいたします。

申し込み・問い合わせ s-ayumi@pop21.odn.ne.jp 会代表 さかした ひろこ 坂下 裕子

主催 こども遺族の会「小さないのち」 <http://www.chiisanainochi.org/>